

受け止める人

ブロックアドバイザー 大兼久 芳規



「サマリヤの女は言った。『あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリヤの女の私に……。』」

（ヨハネ四章9節）

この女性は、良い思いをもって近づかれた主イエスに、きつい言葉で返答しています。彼女には彼女なりのトゲの言葉が出る要因がありました。自分の実生活、今まで接してきた人たちの冷たい視線。しかし、誰かがそのトゲのまま私を受け止めてくれることにより、素直な自分に帰ることができます。

キャッチャーの仕事は、投げられたボールを受け止めることです。そこには良い球だけがくるとは限りません。取りやすいボールもきますが、良いキャッチャーは、ボール玉もワンバウンドのボールも自分の身体で受け止め、後ろにそらしません。

良い出来事も、そうでない出来事も、優しい言葉も、トゲのある言葉も静かに受け止めることができたら幸いです。主イエスは、サマリヤの女の冷たい言葉を静かに受け止められました。初めはきつい態度であった彼女でしたが、後に変わっていきます。人は相手が自分に罪を静かに受け止めてくれるとき、愛を感じるからです。

きつい言葉にきつい態度で返すとき、その関係はエスカレートしていきますが、少々厳しく、冷たい言葉であったとしても、柔らかく受け止められることにより、人は変わります。

主イエスは言葉、そして物事を柔らかく受けとめる

ことのできるお方でした。この主イエスの柔らかさは、きよめの特徴でもあり、私たちが心碎かれ、きよめに生き続ける時に与えられる柔らかさです。自分の好き嫌いや好みではなく、近づく者を受けとめる柔らかさです。初めは受け取れなくても、一人になり、御霊に示され、御心と分かれ、頷きが与えられることにより、与えられる柔らかさです。

聖書には他にも、迫害者サウロを受け止めたアナニヤが記されています（使徒の働き九章）。近づくことさえ、どれだけ恐ろしかったでしょうか。しかし彼が主に従い、そのサウロを受け止めたことにより、宣教者パウロが生まれました。

また異邦人を受け入れることに躊躇していたペテロにも（使徒の働き一〇章）、きよくない生き物の幻を見せ、「神がきよめた物を、あなたがきよくないと言ってはならない。」と諭されました。その受け入れの姿によって、異邦人への宣教が始まり、キリスト者コルネリウスが生まれました。

神の国は、自分の思いと違うものを受け止めることにより、打ち建てられます。あなたも主が示されたものを「受け止め」てみませんか。

生きたきよめは、人を主イエスに近づけます。そこには、好き嫌いに動かされない恵みがあります。この月も、主イエスに近づかせていただきますように。

「どうしてサマリヤの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。……彼女は言った。『先生……』」

目次

- 受け止める人……大兼久芳規……1
- とにキャンへ、東関東牧師研修、霊想……2
- 北日本ブロック近況、「とにキャン」フェス……3
- 海外トピックス、国内教会局、燭台……4
- 宣教研究委員会「伝道」、BA 教区主事会議……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

「とにキャン」の交わりを深める
第2回とにキャン・フェスティバル
 タイトルは「全力協力」
ユースの励ましに

木更津教会 宮崎聖輝

と笑いの溢れるときとなりました。その後、昨年に引き続き葛田聡毅師(通称B.J先生)から幸いなメッセージが取り次がれました。タイトルは「全力協力」。第一歴代誌一九章12節、13節から、ダビデとヨアブの美しい協力関係が取りあげられ、私たちも互いの信仰を支え合い、助け合い、主の御力を信じて進んでいこうと励ましのメッセージを頂きました。

3月28日、中目黒教会にて、第2回「とにキャン」フェスティバル(以下・とにフェス)が開かれました。この「とにフェス」は、昨年からスタートした会合で、今年で2回目となります。「とにキャン」が年に一度の開催で、その間にユースの励ましとなる会合がほしいということで開催されるようになりました。今年の新しい試みとして、関東だけでなく東北においても開催され、更に活発な活動がなされています。以下、関東の報告を致します。

プログラムは午後から開始し、このために編成されたバンド(賛美リード・西潟証兄)による賛美のときがありました。昨年のとにキャンで献げた賛美が献げられ、心ひとつにして主を見上げました。続いてアイスブレイクのとき、長谷川諭兄がリードしてくださいました。伝言ゲームあり、クイズあり、体を使ったチームリレー戦ありと、互いの緊張がほぐれ、笑顔



その後はいよいよおまちなねのクレープパーティー、それぞれの好みで作るクレープは格別で、思わず食べ過ぎるユースもいるぐらゐの盛況ぶりでした。背後には、朝から来て準備してくださったスタッフの労がありました。今年の参加者は計43名で、主に関東の教会を中心としたメンバーが集まりました。この働きに理解し、祈り、送り出してくださいる先生方と教会の支援を覚えてつづの集会となりました。心からの感謝とともに。

東関東教区教役者研修会

子ども・青年の
伝道と育成

千葉教会 田辺岩雄

春の教区会の翌日、市川サンシティで、教役者研修会を行いました。講師は町田クリスチャンセンターの杉本玲子先生です。

テーマは「これからの子ども、青年の伝道と育成」。講師の長年の教会における豊富な経験や知識から、内容たっぷりの充実した講演でした。特に、ご自身の教会で様々なソフト・チェンジの証しや、ミッションの的確な具体例に、目が大きく開かれました。

参加者も、質疑応答を熱心に行い、新しいチャレンジへの具体的な一歩を踏み出す決意を表明し、終えました。



イースターの恵み
霊想



春が来た!



ウェスレアン宣教師
ロビン・ホワイト

イムマヌエルの皆さん、いつもありがとうございます。日本の生活と宣教の中で、皆さんとの交わり、応援と協力を感謝しています。

皆さんのほとんどは、もうご存知だと思いますが、去年の12月に、私は名古屋教会の勝山陽子さんと結婚しました。そして、4月30日に結婚します。夏にカナダへ一時帰国し、来年、日本に戻って一緒に宣教活動を続けます。これからも日本の宣教のため、イムマヌエル教会の皆さんと協力することを楽しみにしています。お祈りをよろしくお願いします。

陽子さんとの結婚のことを伝えたい時、ある日本の友だちは、「お！ロビンに春が来た!」と言いました。私はその時初めてその表現を知りましたが、確かに意味をなしていますね。特にこんなに長く独身である私のような人間にとって。そして私たちの結婚式を春に行うことも適っているでしょう。春と言えば、新しい始まり、新

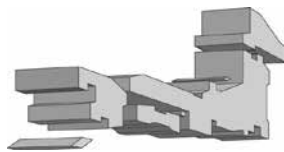
しい生命、ということを考えるでしょう。それで、イースターは春にお祝いすることもふさわしいと思います。

罪、恥、苦しみという、暗い、冬のような罪の世界に、主は光として来てくださいました。「この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。」(ヨハネ一・4、5)

神様は愛によって、より良い生き方を示してくださいました。「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。」(ヨハネ八・12)そして、何よりも、私たちの罪のために死んでくださいました。これは、主の愛の最も偉大な表れです。「しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに對するご自分の愛を明らかにしておられます。」(ローマ五・8)

しかし死が終わわりではありません。主は復活されます。それによって私たちが新しいいのちをいただくのです。IIコリント五・17、「ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」なので覚えましょう「春が来た」とは、主について行く私たちにとっての新しい現実なのです。この世界はまだ寒く、暗く感じます。でも、「春が来た!」です。

国内教会局 スクエア



北日本ブロックの 近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー

川嶋 直行

「見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いです。あなたがたはヨブの忍耐のことを聞き、主によるその結末を知っています。主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられます。」

(ヤコブ五章11節)

北の大地に桜の花が咲くのは5月のゴールデン・ウィークのあたりでしょうか。長かった冬が終わり、待ちこがれていた春が来ます。この春の訪れの喜びは、厳しい冬を通してきた北国だからこそだと感じます。北日本ブロックの為に、いつもお祈りとご支援を頂き、心より感謝申し上げます。北日本ブロックの東北教区、北関東教区、ならびに北海道地区の近況を報告いたします。

*

北海道地区には、札幌、恵庭、釧路の3つの教会があります。5月と8月に3教会が札幌に集まり、地区会を持っています。8月には夏のポップラ聖会が開かれます。札幌教会は今年開設60周年を迎えます。これまでの歴史を纏めた記念

誌の発行に向けて準備が進められています。釧路教会では深川教会とインターネットで結ばれ、礼拝の同時中継が行われています。また、市内の教会の礼拝に合流する

ときもありますので、お仕事や旅行等で訪れる場合は、予め電話でご確認頂ければと思います。

*

東北教区は、大湊、青森、十和田、盛岡、秋田、山形、鶴岡、白根、仙台、郡山の9教会で構成されています。教区主事の国光先生を中心に、4月(仙台・作並)と11月(秋田)に教区会を持ちます。春か秋のどちらかの教区会は、教区の教会持ち回りで行われ、祝日に合わせてミニ聖会が開かれます。これは、南北に長い東北教区が考え出した妙案で、夏の聖会になかなか出席出来ない信徒の方々にとって、大きな励まし、恵みとなり、また、教区の牧師たちも、教区の教会を

覚え祈り合う幸いな機会となっています。今年、6月16日、18日まで、山形において日本福音連盟(JEF)の総会と聖会が開かれます。3月26日には、東北「と

にキャン」フェスティバルが開かれ、次世代への信仰継承に積極的な取り組みがなされています。東北の教会は、祈りと愛情を込めて子どもたちを育てても、就職や進学などで都会に送り出す、いわゆる「苗床教会」が多くあります。牧師の高齢化とともに、教会の将来を担って行く若者たちが定着し、育つてくるのが切なる祈りです。仙台教会は、隣接の古い建物が取り壊され、新会堂建設に向けて祈りが積みまれています。

*

北関東教区には、宇都宮、高崎、上田、鴻巣、北本、大宮、浦和、蕨、鶴ヶ島、狭山、越谷の11教会があります。教区主事の西澤誠先生を中心に、4月(浦和の別所沼会館)と、10月(鴻巣教会)で教区会が持たれます。毎年、春には、教区合同で北関東バイブルキャンプを行っています。今年、ザック・マツ宣教師を主講師に、さしま少年自然の家(茨城県猿島郡境町)で行われました。このキャンプから育ってきている子どもたちも多く、「魂のふるさと」のような感じになって来ているのとです。越谷教会は、昨年創立30周年を迎え、記念誌を発行しました。これを機に、信仰をもって自給教会として出発しました。狭山教会は、市内の日本宣教会狭山教会の助けを頂き、月に1回、合同の礼拝を持っています。北関東教区も、牧師の高齢化が進み、後継者問題は切なる祈りの課題です。

者問題は切なる祈りの課題です。

東北とにキャン・フェスティバル とにフェスを東北に!を実現 広い東北から一堂に会し 「もうすぐ参加者」も 一緒に恵みに加わる

秋田教会 神谷光一

れ、受験を越えて、これから新しい環境へ進もうとする一人ひとりに、説教者の救いから献身に至るまでの証しに併せ、テキストの背景であるイスラエルの歴史を交えつつ、過去・現在・未来のそれぞれに私たちが愛し、大切に思っていて下さる神さまが豊かに語られ、新たな踏み出しに備えている中高生への大きな励ましの機会となりました。

さらに「とにキャン参加者」の中高生に加えて「もうすぐ参加者」の小学生も交えつつ、共に遊び、共に食し、大いに賛美しつつ一日を過ごすことができました。

南北に大きな広がりを持ち、集まるのが難しい東北で、同じ世代の信仰の友が一堂に会し、共に笑い、集まって親しく話す姿は、重荷を持って準備を進めてきた奉仕者達の労苦に報いて余りあるものであり、この夏のとにキャンへの期待と共に、次代の希望を感じさせるひと時となりました。

山形教会を会場に初めて行われた東北「とにキャン」フェスティバルは、これまでのとにキャン参加者と、教区内の中高生の交わりの深化と霊的励ましを願ってのもです。本来は、ここ数年行われている冬の東北ユースキャンプがその役割を含んでいました。ところが、メンバーのうち多数が高校受験の季節と重なり、ユースキャンプに参加できなかった事情があり、恵みの機会をどう持つことができるかを模索するうちに生まれたのが「とにフェスを東北で!」という今回の企画でした。

新潟からお招きしたメッセンジャーの黒川哲先生は、神学生の夏期実習で山形と秋田の教会で奉仕され、当時、小学生だった子どもたちが、今は高校へ進むまでに成長した姿を見、感慨を込めてみことばを語ってくださいました。

テーマは「You are Precious. あなたは高価で尊い。」のもとに、イザヤ四三章4、5節が開か



国内教会局から

教会建設の務めに
何人かでも救いに!

お互いに春の教区会を越え、秋までの歩みについて話し合い、祈り合うときを与えられました。各教会の取り組みの上に神さまの祝福が豊かに注がれ、多くの結果が結ばれますようお祈り申し上げます。



教区の集いの中で、伝道・教会活性化について研鑽や意見交換の時をお持ち頂けたでしょうか? 過密なスケジュールの中であることと拝察致しますが、これからの教会建て上げの一助となれば何よりです。伝道の方策や形態について話し合い、祈り合う先生方のお姿や、聖徒方との協

労体制を作り上げようと試みを重ねる諸教会の取り組みに大いに励ましを頂戴しております。使徒パウロは何人かでも救いに導くために、要領よく七変化をしたのでなく、全ての人の奴隷となつたと告白しています(1コリント九・19、23)。この辺りを出発点として今年も取り

(葛田崇志)

■宗教観に関する米調査で「無宗教」との回答が初めて首位に
米国人の宗教観に関する調査で「無宗教」との回答がカトリック教徒やキリスト教福音主義派を上回って23・1%を占め、初めて首位に立ったことがわかった。これは、イースタン・イリノイ大学の政治学者でバプテスト派の牧師でもあるライアン・バージ氏が、長年実施されている総合的な社会状況調査を新たに分析した結果、と米メディア「CNN」(日本語電子版)が4月14日報じた。
「無宗教」23・1%に次いでカトリック教徒23・0%、福音主義派22・5%。これら3グループの値は回答率の誤差の範囲内にあり、統計学的には同一の数字とバージ氏は見なしている。同調査では4年間にわたって信奉する宗教に關する同じ質問をしているが、今回のような数字の並びは初めてだといふ。

無宗教層の激増は1990年代から成り立っている。とする人々など様々なグループから成り立っている。無宗教層の増加の背景要因については、専門家の間でも様々な見方が出ている。無神論者の団体責任者はインターネットの存在が要



海外トピックス

初期から始まった。91年以降では26・6%も伸び、今後4〜6年間は明白な最大勢力になることも推測。無宗教と答えた層は、無神論者、不可知論者、心靈主義者や特定の組織的な宗教には組み込まない

因と分析、ネットは無信仰者が同様の思いを抱く者を見出せる場所を提供していると指摘している。
■中国広州で不法な宗教活動通報に賞金
中国広東省広州市の民族宗教事務局は3月20日、不法な宗教活動に関する情報を当局に通報した市民に対し最大で1万元(16万5千円)の賞金を支払うとの新規定を発表、と共同通信が報じた。
新規定は当局の許可を得ていない団体に関し、通報内容に応じて賞金額を設定。「海外の不法な宗教組織」の主要メンバーの拘束や中国国内での活動状況の解明につながる情報提供や捜査協力には5千〜1万元を支払うとしている。
宗教が反体制活動につながることを警戒して「宗教の中国化」を進めている中央政府は、非公認の「地下教会」などの取り締まりを強化しており、その意向に沿ったものと見られる。(平瀬聡樹)



讃美歌講座の学びから

「うちに『万葉集』あったかしら?」。すぐさま家人が出してきたのは注釈無しの岩波書店のものでした。話は弾み、万葉学者の名前にまで及びます。相手がなぜそのようなことを知っているのか意外でしたが、なんでも学生のころ興味があつて、その本をほんの少し学んだようです◆「ところでインターネットの講座に『万葉集』のことが出ていたね」と、話題はさらに先ごろ共に受講したeラーニングの讃美歌講座のことに移りました◆同じことを学んだはずなのに、そのような記憶は私には全くありません。こんなふうに講座全体の中でひとつかふたつしか頭に残らなかったとしても、この学びは大変有益なものでした◆この講座では、讃美歌の歴史の学びが現代に迄及んでいたもので、二十世紀の新しい讃美歌の作者や、作られた背景なども知ることができました。その影響から、私が最近よく口にするのは、現在英国でもっともよく歌われている讃美歌の一つであると言われる、キース・ゲティとタウンエンド共作の「わたしの望みは」です◆また『教会福音讃美歌』がどのような流れの中で作られ、どのような成り立ちをしているかなども教えられ、その讃美歌集に対する消極的な態度が改められたと思います。歌う前にまず、作詞者を見、年代や作曲者名も見て、歌詞を丁寧に読むようになりまして◆それにしてもこの講座を通して『イムマヌエル讃美歌』と『ひむなる』が一層私には慕わしくなり、またこの発行のためにどんなに多くの労苦が払われていたのだろうかと思いました。それは讃美歌の翻訳などについての専門的な学びなども少しあつたからではないかと思われまふ。今までは以上、これらを大切にして歌っていきたく思います◆こうした講座に参加するなど、新しいことを始めるとき、私は「今さら」とか「周りの方々の迷惑になるかも」と思い悩み、怯むのですが、伝道の働きに少しでも益となると思われることにはそういう気持ちに打ち勝って、まだまだ自分に投資していかなければと考えている昨今です。「……しかし、占領すべき地は非常にたくさん残っている。」
(ヨシユア記一三章一節)
(久保以津子)

神学宣教研究委員会による

伝道に関するアンケート 見えて来る 伝道の可能性

宣教部会 田辺寿雄

宣教研究委員会では、昨春秋に全教会を対象に「伝道」についてのアンケートを実施しました。回答をまとめたものを年会で発表させて頂きました。集計結果の一部を以下に記します。

▼伝道会(55教会)や特伝(71)などの従来の方法のみならず、伝道礼拝(64)、コンサート(57)、教室やサークル(33)などの伝道の方法が取り入れられています。

▼「とにかく人が来ない」(42%)、「来会されても続かない」(56%)、「長く来会されているがなかなか決心しない」(56%)など、伝道の困難も浮き彫りとなりました。

▼2017年10月から2018年9月の一年間、102教会に延べ2100名の未信者が来会され、そのうち842名が再来会され、73名が受洗に導かれました。

▼過去5年間に受洗した人のうち、75%は教会員の関係者でした。また35%は3年以上の求道期間がありました。

集計結果を分析し、宣教部会として、次の提言を発表しました。

このアンケートの結果や提言をきっかけとして、各教会で今一度伝道について話し合い、伝道のビジョンを明確にし、伝道がより楽しく活発になることを祈ります。

1 牧師と信徒による伝道のビジョンと重荷の共有 伝道とは何かという定義や、どのように伝道するのかというビジョン、それに対する情熱や重荷が牧師と教会員によって共有されていく必要が大きくなっています。牧師と信徒のチーム伝道となるために、時間をかけて話し合い、伝道のための具体的な方法や一致が教会の中から生み出されるかどうか、今後の伝道の鍵となるように思われます。

2 魅力ある礼拝作り 求道者の多くは礼拝(伝道礼拝を含む)に来会されています。礼拝に今後の伝道の可能性の一つがあると云えます。教会員が「楽しみ」「待ち遠しい」「誰かを誘いたい」と思える礼拝、未信者が「出席してみたい」「また来たい」と思えるような礼拝を、祈ってアイデアを出し合って作り上げ、創意工夫を繰り返す作業が大切です。魅力ある礼拝はそのまま伝道になります。

3 総合的な伝道 30以上の教会で教室やサークルが行われ、その内容は子育て、語学、音楽、料理、手芸、塾的なものと多岐にわたり、多くの方法を用いて伝道しようとする姿が見られました。これは教会の敷居を低くし、地域とのつながりを生み出すきっかけとなり、同時に信徒の賜物が生かされる機会ともなります。教会の中の賜物や特技・趣味と、地域(求道者)のニーズが一致する時、そこに伝道のチャンスが生まれます。教会が伝道の楽しみと喜びを見だし、取り戻すためにも、総合的な伝道のあり方がますます追求されて良いのではないのでしょうか。

4 関係性を築く伝道 1人の人が教会に来てから受洗するまでの期間が長くなっている傾向が見られます。また、伝道とは魂を獲得することであるということ以上に、その人の友となる関係作りではないかという意見が寄せられました。伝えるメッセージやその方法のみならず、関係性が築ける教会であるかが問われているようです。メッセージを伝え、聞かせる伝道とともに、教会の中にある愛を体験してもらおうという伝道の両方が必要です。伝道とは教会におられる夫婦、親子、兄弟姉妹の愛の延長です。伝道の土台としての教会の中の関係性が問われています。

5 連続性を持った伝道 先述の来会者2100名のうち、73名が受洗に至っています。これは全体の3%、つまり33人に1人です。1人の人が救われるためには、ある程度の人の出入りが教会に起こる必要があるということが言えます。そのような人の出入りを生み出すために、伝道の連続性を以下のようなステージ別に考えることができます。

ステージ	目的	働き
① 教会を知らない(人)	知ってもらう	知らせる：チラシ、HP、口コミ等
② 教会に来たことがない(人)	来てもらう	誘う：コンサート、バザー等
③ 教会に来たことがある(人)	続けて来てもらう	友達になる：教室、サークル等
④ 教会に続けて来ている(人)	聞いてもらう	伝える：伝道会、聖書を学ぶ会、伝道礼拝
⑤ 求道心を持っている(人)	信じてもらう	導く：伝道会、礼拝、求道者会等

ステージ①から⑤を対象とした伝道が同時にできる教会もあるでしょうが、それが無理な教会でも、実情に応じてどこかのステージに重点を置くことができます。例えば、とにかく人が来ないのであれば、まずはステージ①と②に重点を置き、数年後にステージ③に重点を移行するなど、臨機応変に伝道することができそうです。当たり前のことですが、人の出入りが増えるほど、救われる人が起こる可能性は高まります。1人でも多く、1回でも多く来てもらうための努力と工夫が、今日の伝道には特に必要とされています。

6 教会間協力の推進 伝道に関する情報や技術・賜物の共有が教会間でもっと積極的になされる必要性が見えてきました。1教会が孤立してしまうことのないように、牧師と信徒レベルでの教会間協力がより一層進められることが期待されます。

BA・教区主事会議

思いを一つにする時
伝道を考え、
世界宣教を知ろう

国内教会局長 岩上祝仁

年會後の3月25日(月)〜26日(火)BTCのペテルハウスを会場にして、春のBA・主事会議が行われました。全国の教区主事とブロックアドバイザーが集まった研修のひと時を持ちました。

一つ目は宣教研究部による「伝道」について研修の掘り下げとそれを受けてのディスカッションでした。特に地方教会における伝道についてと次世代の育成についての提言を受けて、話し合いました。

特に地方教会における伝道の困難さを踏まえた上で、具体的な取り組みを考えて行かなければならないことと、兎に角忍耐強く伝道しつづけてゆくことの大切さも分かちあわれました。

もう一つは世界宣教と地域教会の関わりについて、世界宣教局の梅田登志枝局長によるイムマヌエルの宣教の歴史とその意義が語られました。また島田就子宣教師により、ご自身の体験に基づいて、小さな地方教会であっても世界大の宣教の働きに加わり、祈りとサポートによって貢献している事実が語られ、宣教へのチャレンジを受けた幸いな研修会でした。

巻頭言

無名な人々による宣教



世界宣教局 梅田 昇

新緑の季節を迎え、福音を伝える特別集会在各地で行われることでしょう。教会史の中で、著名な宣教者がいますが、多くの無名の奉仕者、証し人があつた事実を忘れてはなりません。アンテيوخキ



広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

http://www.immanuel.or.jp/world/

ア教会を見ると、ステパノの殉教から飛び火した迫害のために多くの無名の信仰者がアンテيوخキア教会の様子をちよつと覗いてみましょう。

1 試練を通過した人々

ステパノの殉教は信仰者に大きな衝撃、悲しみを与えたことでしょう。迫害のためにエルサレムを追放され、新しい生活拠点を探し求めていたのです。指導者だけでなく、無名の信仰者たちも時代の流れに翻弄されたのです。試練の中にも喜びと希望を持ち続けていたのです。

2 主の御手があつた人々

最初は、ユダヤ人だけにみこと

ばを語っていたのですが、アンテيوخキアに来るとギリシャ語を話す人々にも福音を伝えたのです。その結果、「大勢の人々が信じて主に立ち返った」(使徒一章21節)のです。ペテロやパウロのような偉大な宣教者も必要ですが、神様は無名な忠実な信仰者を尊く用いられます。このニュースはエルサレム教会に届いたのです。それで、バルナバが派遣されて、アンテيوخキアにやってきました。こうして、アンテيوخキアで初めて「キリスト者」と呼ばれるようになったのです。

3 指導者と協力する人々

この無名な人々は、烏合の衆のようにばらばらに活動していたわけではありません。アガボという人の預言を受け止め、大飢饉の際に、ユダヤの兄弟たちに救援物資を送ることを決めたのです。それで、必要な救援物資を集め、バルバナとサウロの手に託したのです。アンテيوخキア教会の信仰者は、神の恵みに満たされ、指導者たちと協力をしながら宣教の働きを熱心に進めたのです。

今日、特別な賜物をもつた人だけによって宣教の働きがなされるわけではありません。宣教の最前線で奉仕する器のために祈り、支え、サポートする人々が必要です。教会の働きも同じで、教会建設は牧師だけでなく求められます。信徒方の真実な祈りと奉仕が求められています。



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2019年4月17日

巡回のため、お祈りを感謝申し上げます。3月は、神学院の卒業式出席と年会出席が許されました。また月末のB.A・主事会議にも招いて頂き、国内を代表される先生方にケニアの報告をする時間が許されました。

教会の巡回としては年會前に高津教会、また年會後には、広島教会、浜田教会、呉教会を一連のスケジュールとして組んでいた。たので、関東に戻らずに連続して伺うことが許されました。3月最後の日曜日は松戸教会に招いて頂いて3月の巡回を締めくくりました。年會時期にはケニアの宣教師方が日本を覚えて祈ってくださり、感謝でした。

初めて伺う教会、数年ぶりに伺う教会、と様々でしたが、広げた翼や毎年の報告ビデオなどで覚えて祈ってくださっていることを肌で知ることができ、また紙面に書ききれない所を質問して頂いたりすることで「ケニアがより身近に

なりました。これからもっと具体的に祈れます。これからもお祈りします。」と声をかけて頂いたのは大きな励みでした。ちょうど、桜で有名な場所にある教会に、満開の次の日に呼んでいただくという、日本の自然を満喫する時も与えられて感謝でした。

卒業式では、10月から半年の在籍でしたが、送り出して頂いた2000年の卒業式を思い出しました。また、これからはばくく写真でしかお目にかかれぬ卒業される先生方を立体的に拝見して、できるだけ記憶にとどめさせて頂くこと、身近で拝見できたことは幸いでした。

今回の帰国では、帰国してからまた巡回が始まるからお申し込みを頂いたので、当初の予定よりは多くの教会に伺うことができ感謝でした。それでも、年會に出席すると、あの先生にも、あの教会にも、あの地域にも、まだまだ伺えなかった、と多くの方々に祈りの感謝をお伝えしきれなかった、とまさまじと見るようになりました。引き続き各地で、「包帯を〇月〇日に送りました」「包帯を作り始めたんですよ」等のお声をかけて頂き感謝です。また、宣教師の子供としてケニアで育たれ、ご自身もアフリカの各地で医療宣教師として奉仕され、今は別の立場で日本に居られるご家族に招いて頂き、お交わりを許されたことも感謝でした。引き続きお祈りよろしくお願い致します。■



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2019年4月14日

「十字架につけられたイエス・キリストが、あなたがたの目の前に、あんなにはっきり示された。」

(ガラテヤ三章1節)

台中教会の会堂移転のため、背後でお祈りとお励ましを頂き、ありがとうございます。教会の方は、3月半ばに正式契約を経て、電気配線やクーラーの移設、水回りの修繕と改修工事が完了しました。あとは、音響の移設を残すのみとなり、教会の書籍や備品の移動を、毎集会後に、少しずつ教会の愛兄弟方がご愛労くださっています。教会メンバーだけでなく、教会に来ていない姉妹方のご主人や家族、友人方もお手伝いくださり、このような関係の築き方もあるのだと、新しい発見をしています。牧師宅の方ですが、賃貸予定の物件のキャンセルで、教会の引越、定例の集会と同時進行しながらの物件探しで、少し難航しましたが、条件に見合う良い物件が与えられ、先週末、正式契約も終え

ることができました。順次、引越を進めて参ります。5月には完全に移行する見込みです。

そんな最中、3月24日の聖日に金沢教会から7名のゲストを迎えての特別集会を守りました。冒頭の聖句よりみことばが取次がれ、中高生メンバーによる「十の災い」のスキット、「とくにキャン」のレパートリー賛美の紹介、救いの証しといった盛りだくさんの恵みを頂きました。引越作業や当地ならではの契約の難しさに翻弄された宣教師家族にとって、本当に憩いのひと時でした。

参加者から寄せられた一言証しをご紹介します。台湾への宣教師地訪問を随時受け付けております。「神様から多くの恵みを頂きました。感謝です。」(蔵谷梨絵姉)「温かく歓迎してくださり、感謝でした。これからも台中教会のため祈ります。」(葛田愛実姉)「初めての海外だったので不安でしたが、優しくしてもらいうれしかったです。」(柳つばささん)「神様の愛が、国に関係なく世界各地に注がれていることを肌身に感じる事ができました。」(戸田聖愛姉)「台湾の宣教訪問を通して色々なことを体験できました。国は違っても同じように信仰されていることを実感できました。」(地下莉々亜姉)「台湾教会の皆さま、いつかまた会う日まで(希望、夏!)」(戸田基広)「台中教会の皆さまの前進に祝福がありますように。」(葛田崇志師)引き続き、教会が一致して進ん

で行けますよう、背後のお祈りとご支援を宜しく願います。栄光在。主。



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2019年4月9日

今月は、私たちが聖書大学で働きを開始したとき以来の大きな出来事がありました。詳細は述べられませんが、このことで6人の学生たちが停学処分となりました。

引き続き、学生たちがサタンの攻撃から守れ、学びと訓練に励むことができるようにお祈りください。学校の週2回のチャペルの時間は13人の教職全員がローテーションで説教の御用を担当しており、今月は恭子の順番が回って来ました。ヨシユア記四章から「次へつないでいく」という月間テーマに沿ってみことばを分かち合うことができました。

最後に、「マニラ日本語キリスト教会ファミリーキャンプ」について報告させて頂きます。

今まで常喜が2度ほど呼ばれたこのキャンプのご奉仕に、今度は恭子を呼んで頂き、行って来ました。初めて声がかかった時は、冗談だと思ってスルーし、次は別の方を推薦、3度目によくや本当に自分が呼ばれていることに気がついて驚きながらも、光栄な機会でした。

3日目のチャペルと同じ箇所から今年のキャンプのテーマ「愛・あい・アイ、君も愛されている」に沿った着地点でのみことばの分かち合いになりました。天候も健康も守られ、昨年のキャンプの反省から大いに改善されているのを随所で見ることもでき、準備委員の皆さんの様子にこちらが良い刺激を受けました。

年末から聖書の中に出てくる石について深く調べ続けてきた学びもこれでひと段落し、少し「石ロス」状態になりました。引き続きお祈りをお願い致します。



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香*2019年4月5日

3月には、国際医学生連盟の日本から6人の医学生、看護学生それに薬学生が来られました。ネットの悪さで、こちらに来るバスに乗ったという連絡がなく心配しましたが、大体これ位に乗るだろうと思われる時間に迎えに行ってお待たせすることができました。皆さんからは、朝乗った時間をショートメッセージで送られていたようでしたが、私のところには届きませんでした。でも何とか皆さんとお会いできてほっとしました。結局、私は4時間近く待ちました。ザンビアに着いているのか、日時を間違えたのか、色々心配しました。この国ではこれくらい待つことはよくあることなので忍耐をもって待ち続けました。無事にお会いできたときには本当に感謝な思いで一杯でした。宿泊をされるの見学という事で、どうなることかと思いましたが、皆様は、現地の田舎を既に経験してきた後だったと

いうことで、多少こちらの文化にも慣れておられたようで、シヨックは受けずに受け入れてくださったようです。交わりは祝され、くつろいで根廻宣教師の話など良い時が持てたと喜んで帰って行かれました。本当に感謝でした。私にとっても訪問団を受け入れる前に良い予行練習となりました。また改善しなくてはいけないことなども見えて感謝でした。

I GMからの訪問団の申込みも来ているのを伺い、感謝しています。主が最善のチームを作ってくださいることでしょう。お待ちしています。車も何かと修理が続いています。大丈夫と励まされながら備えています。

今年のザンビアは、特に私たちの南部は雨が極端に少なく、主食のトウモロコシが全滅のようです。これからの一年厳しい年になります。バイブル・カレッジも食料がなく一時帰宅させ5月に帰って(食料を探して?)再開するそうです。既に暑くなり、一方で朝晩は寒く冷えるようになっています。普段風が吹いて冷えるのは6、7、8月頃なのですが、今年は寒さが早く来るようだともみんなが話しています。訪問団が来られるころは暑いと思いますが、天候はどうなるでしょうか。

準備のため、参加者のため、そしてザンビア人の生活、食糧不足になりかねない状況(既に主食の粉が値上がっています)のためにお祈りください。■



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子*2019年4月1日

主の御名を賛美申し上げます。3月は大雨季のはずですが、私たちがいるところはまったく雨が降らず、作物が育たずに枯れてしま、大変な被害となっています。大半が農家であるザンビアにおいては厳しい年となりそうです。

外来では風邪が流行しており、原因としては、空気の乾燥状態が続いていること、作物がとれずに栄養の低下を招き、全体的に免疫が下がっていることが考えられます。

今月はいつもの以上にスタッフ不足で日夜呼び出しがありました。特に産科病棟では幾つか異常なお産のケースや新生児仮死など特別なケースがありました。幾つか病院搬送となるケースがありました。救急車も遅くなりすぎることなく(1時間前後)到着し患者を病院へ搬送することができました。全ケースの母子の命を失うことなく守られたことは本当に感謝でした。

日本からの訪問者、医療学生たちを迎えました。1泊という短い滞在で、半日のクリニック体験でした。短期間ではありましたが、交わりの時をもち、ザンビアの現状や課題などを話す機会となりました。ジェンボでザンビアの田舎クリニック体験をできたとの感想を頂き、喜んで頂いたことは感謝でした。

就労ビザのためお祈り頂きありがとうございます。2年毎の更新である就労ビザの更新の手続きを済ませることが許されました。4月の終わり頃に切れると思っていたところ、書類の準備をしている時に切れるのが4月上旬であることが分かり、急遽、ルサカに行くことになりました。

その中で、感謝だったことは、PWCの秘書が多くの手続きを担ってくださったことで、私は必要書類だけを手渡して日帰りで帰ってくることができました。ただその後、秘書がすぐに書類を出し入れ管理を持って行けなかったというハプニングがありました。連絡を取って早急に対応してもらえよう話し、無事に更新手続きの申し込みができ、本当に感謝でした。

最近、ビザ発行のために新しいシステムが導入されたとのこと、発行日時が遅れている現状で、日本に報告届国前(10月報告届国予定)に受け取れるか微妙な状況です。引き続きお祈り頂けましたら幸いです。■

お祈りの課題

台湾(平瀨)

◆5月完全移行の見込みです。引き続き、覚えてお祈りを宜しくお願ひします

◆神さまが新しい会堂と牧師宅を与えて下さいました。新しい場所での働き・変化の中、教会が一致して進んでいけるように

◆子どもたちの学びと将来の導きのために(明里は高三後期、勝大は中三・2人とも受験生です。)

◆複雑な極東アジアの国際情勢の中、台湾の政治や経済、教育、治安が安定し続けるように

◆ザンビア(根廻)

◆クリニックの働きが祝され守られますように

◆ザンビアの人々の生活が守られるように

◆就労ビザが無事受け取れるように

◆ザンビア(富澤)

◆訪問団の受け入れ準備のため

◆参加者が十分与えられますように

◆ザンビア人の生活が少しでも助けられますように

◆香港(鹿島)

◆創立10周年記念感謝礼拝(6月2日)に向かう歩みのため

◆広州の祈福で始められた聖研祈禱会のために。旧約聖書を一書つ

つ学んでいます

◆出入りの多い牧師夫妻の健康と安全のため

◆カンボジア(富田緑乃)

◆献堂式の後、建設が順調に完成し、内装の必要が全て満たされ、引越しが速やかにできるように

◆KCCの伝道者の霊的成長、信仰の開眼のため

◆蕪田の脊椎狭窄症からくる痺れの範囲が最近ひろがってきている感じ

◆フライピン(豊田)

◆学生たち(とりわけインターンシップの学生)がサタンからの誘惑、攻撃から守られ訓練と学びに励むことができるように

◆聖書大学での神学教育(聖書解釈)の奉仕のため

◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように。子どもたちの学びのため

◆ケニア(富田就子)

◆3月も巡回奉仕が守られ、包帯も与えられた感謝

◆締めくくりに近い巡回の奉仕が祝されるように

◆テヌウエク病院の働き人(ルカ一〇・2)特に麻酔科と検査室の必要が満たされるように

◆グローバルユースミニストリー(富田康毅・由理)

◆スタッフ・同労者が心を一つにして前進できるように

◆隣国の特別なリクエストに取り組み知恵と力が与えられるように

◆GYMの活動が軌道に乗るよう

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

流れて行く先に

院長 ● 河村 從彦

「この川が流れて行くどこでも」(エゼキエル四七・9) 大好きな詩があります。タイトルは「幾筋」です。川にたずねた

「どこへ行くのか」
「ひくいとこへ」
別の川にたずねた
「どこへ行くのか」
「ひくいとこへ」

幾筋流れても
争いが無い

(『ぞうきん』、河野進著、幻冬舎、2013年26、27頁)

下に流れている限り争いが無い。そうだなと思いました。イエスさま

まの恵みは、イエスさまがそうであられたように下に流れて行きます。どこまででしょうか。十字架までです。

下に流れている限り争いが無い。幾筋流れても、ないので、そうでもないときもあります。上に行きたければ、です。イエスさまとギクシャクします。イエスさまのあとについていった人のほとんどは、5千人の給食を境に離れて行きました。霊的に引き上げられることについて行けなかったのでは

なく、イエスさまが下に行く迫力について行けませんでした。イエスさまと共に上に行きたかったシ



2019年度の神学生です お祈りください

ンパは離れて行きました。イエスさまの十字架まで流れ着いた人はイエスさまの弟子になりました。十字架を見た人は下に向かう流れを受け入れて行きます。奉仕者の整えは、人の上に立ってリーダーになれることではなく、下に行くことを受け入れ、人にお仕えし、人を生かすことを学ぶことです。上に行こうとすれば、イエスさまの収穫は見えないかもしれない。下に流れて行けば収穫は多いことに気づくかもしれません(マタイ九。37)。真のニーズは流れていった先にありそうです。区切りを迎えて、これからを展望しながら、目線の先は現場、信徒目線です。奢らず飾らず頑張らず、下に流れるイエスさまの恵みに身を委ねて行ければ、何かそこに、自分に備えられている使命があるのでしょうか。

神学エッセー

聖霊とクリスチャン生活 (その2) 聖霊と成長



梅田 昇

聖なる神様は、私たちが救われる以前、救われた時、成長の段階で、聖化の転機で、クリスチャン生涯のあらゆる段階で働いておられます。聖なるお方は人格を持つたお方です。ですから、何か神秘的な体験を求めるとは、聖霊との人格的な交わりを持つことが大切であると言えましょう。

一、御霊の賜物

御霊の賜物とは、奉仕のために与えられる能力と定義されます。いろいろの種類の聖霊の賜物があります。「ある人には御霊を通して知恵のことが、ある人には同じ御霊によって知識のことが与えられています。ある人には同じ御霊によって信仰、ある人には同一の御霊によって癒しの賜物、ある人には奇跡を行う力、ある人には預言、ある人には霊を見分ける力、ある人には種々の異言、ある人には異言を解き明かす力が与えられています。」(1コリント十二章8、10節)。働きには様々の種

類がありますが、すべての働きをなさるのは同じ神様です。

二、御霊の実

御霊の実とは、信仰者の品性に結ぶ結果のことです。パウロは、ガラテヤ五章23、23節において、御霊の実について述べています。「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものに反対する律法はありません」。対神的な実とは愛、喜び、平安、対人的な実とは寛容、親切、善意、対自的な実とは誠実、柔和、自制と区別することもできます。聖霊はクリスチャンの人格にキリストらしい品徳を増し加えてくださるのです。

三、恵みの手段

信仰者を成長させてくださるのは神様ですが、成長は自動的になされるわけではありません。農夫が畑にスイカの種を植えたら自動的に葉が茂り、花が咲き、実を結ぶわけではありません。自然の力が実を結ばせるわけですが、農夫が手入れをすることなしに豊かな結果を期待できないでしょう。信仰者が成長するための手段は恵みの手段と呼ばれ、聖書の探求、祈り、交わり、礼拝、断食などを含みます。恵みの手段の行使に当たって大切なことは律法主義に陥ること警戒し、恵みの主を見上げながら、手段を行使することです。今回は、聖霊と聖化について論

◆神学院に入学が許されて

良し！とされて

正規コース 石川 順

「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」

(ローマ八・28)

私はクリスチャンホームで育ちました。しかし、小学2年の時に不登校になり、家に引きこもることが多い、そんな生活を中学3年まで送っていたという過去があります。この出来事は私にとって良いものとは思えないことでした。それでも神様は、私のそのような過去を用いて、ある方の心を励ますということがありました。

8年前に献身の思いが与えられました。その時は神学校への道が開かれずに介護の仕事をしていましたが、2017年のイムマヌエル聖宣神学院のオープンキャンパスで、神様は神学院へ進む道を示してくださいました。入学までの備えの期間を過ごし、入学試験を受験したときに出題された問題は、不登校のこと、それが益とされた経験が活かされるものでした。そして、試験が終わり「合格」

を頂いたとき、私の歩んできた道は、不登校だったことも、献身への歩みも神のご計画の中にあり、これから歩もうとしている道も神様が「良し！」と言ってくださっていると感じました。自分のしてきた努力ではなく、神様が自分にしてくださったことに思いを巡らし、受け入れ、感謝することが大切だと教えられます。また、入学式で、河村従彦院長が語られた「入学審査を受け、あなたを『合格』としたのは審査員ではなくイエス様なのだ」という言葉を通して、私がこの道を歩んでいくことは間違いない道なのだと感じました。これから学びと訓練の期間、主の臨在を感じながら神様が「良し！」としてくださった道を歩んでいきます。

◆神学院に入学が許されて

最善の道を備えられ

短期コース 田中利道

皆様の温かいお祈りと心強いご支援を心から感謝いたします。今私が入学を許されたのは、その祈りの力のおかげです。

27歳のとき、みことばを伴なう個人的な救いの確信のある信仰を与えられたとき、私はすべてを献げましたが、召命のみことばは与



新入生の田中利道兄と石川 順兄です

えられませんでした。それから、約33年後の60歳を過ぎた頃、初めて「なくならない食物のために働きなさい」というヨハネ六章27節のみことばを与えられました。その間も、無為に過ごしたわけではありませんでした。いつ召命があっても、従えるように聖書通読を重ね、自分のための聖書字句索引を何年もかけて作りました。

◆最終学年を迎えて

信頼と無力さ

正規コース 峯尾仰生

「みことばは、あなたがたを成長させ、聖なるものとされたすべての人々とともに、あなたがたに御国を受け継がせることができるのです。」(使徒の働き二〇・32)

私は幼い時から喘息と戦いながら生活していました。埃を多く吸ってしまおうと呼吸が苦しくなるため、いつも吸入器を持ち歩いていました。合宿などで吸入器を忘れた時の落ち着かない不安感は今

と、何度も聞かされました。もし、今従わなければ、従わない理由がどんどん出て来るということを示されました。私が今までして来たことは、より速くバットを振ることができるよう、素振りをし続けていたようなものでした。最後の試合の9回ツーアウト満塁で、代打に呼ばれてバッターボックスに立たされているように感じています。私が救霊のためにさよならヒットを打つことができるかどうかは、ひとえに支えてくださる皆様の祈りによる支えが必要です。温かい祈りと心強い支援をこれからも、よろしくお願いいたします。

でも忘れません。吸入器への絶対的な信頼がありました。さらに、埃が多い場所を徹底して避け、光を通して見える埃に敏感に反応する生活を送っていました。なぜなら埃に対して私は無力な存在であるという自覚が、あの息苦しさから体験的に身に染み付いていたからです。現在は少しずつ落ち着いていますが、この喘息を通して私は何を信頼し、何に無力であるのかを体で教えられました。同様に、みことばを通して、今私は何を信頼しており、何に対して無力であるのかを一つひとつ整理していただいていることは本当に感謝なことです。

私は集中履修制度(4年の正規コースと同様の90単位を2年半で取得し、インターン実習半年)を取っているため、今年度が最終学年となります。あと半年の学びと、半年のインターン実習が残されており、この大切な一年間、みことばに生きる姿勢を聖書から学び続け、自分が何かをする以前に神様が無力な私を信頼してくださっていることへの感謝から一日一日をスタートしていきたいと思えます。喘息の経験がただの戦いではなく、そこからも恵みが広がり、みことばを通して与えられる主への信頼と自分の無力さへの気づきが恵みの深まりに繋がることを信じ、新学期に期待していきたいと思います。

皆様の尊いお祈りと温かいサポートに感謝申し上げます。

私の神学生時代 予科でよかった 17期生 ● 田中 英



「その罪人とはあなただ！」特別集会で、姦淫罪の女性の話（ヨハネ八章）の最後に私に発せられた言葉である。その瞬間、私の傲慢と過去の罪が次々と示され、光の中に道が映し出された。「罪人とは私の事だ！」そして、私はキリストの救いに与かった（Iヨハネ一・9）。その後、「私がしたこと、すべて私に話し」（ヨハネ四・29）。私の罪を刺し（一六・8）。光の中の道（一四・6）に至るまでは、私の内に臨まれたキリストの御霊と悟った。

数年後、主の贖罪の愛に応えられぬ自分に悩む中で、潔めの恵みに導かれた（ヘブル七・25）。

26歳の時「無に等しい者を神は選び」（Iコリント一・27、28）、「召命があるというのだから」と、辛うじて魚網の端に引っ掛かるようにして予科に入学が許された。

入学後、初代院長自ら聖書（創世記）の学びの時間を設けられた。この時の学びが私の宝となり、伝道者の在り方の基礎付けとなった。お腹がよじれるほど笑い転げ、また心の奥底をえぐるように扱われ

た。聖書の面白さ、深さ、素晴らしさを初めて知る思いであった。「神を知れ。聖書を学び自分の思想とせよ。」まさに院長自身が聖書の中にとっぷりと浸かって生きておられる姿を目の当たりにした。「偉くなるな。講壇から下りたら遜り、人に仕えよ。」聖書の理解、霊性、信仰、祈り、説教、教理、牧会、人間性等の全般で大切な事は御霊に満たされた、バランスの取れた健全な伝道者となるように。そして伝道に励めと。わが子を論すように訓育を受けた。

教団創立20周年記念礼拝はゼカリヤ四章6節。その中で「これまでの20年間になされたことは、ことごとく神の御霊によるもの……。御霊への信頼と服従を」の言葉を、私の信仰生涯の力の根源と定めた。

入学後、生活費が底を突いた時、献金も電車賃もなく、毎晩密室で朝方まで祈り続け、体調を崩し礼拝、祈祷会を休んだ。切っぱ詰っていた私は、ある晩禱の当務でつい口を滑らせてしまった。翌朝私の机の上を見て愕然とした。思いもよらぬお金が置かれていたのだ。「しまった！こんな事になるとは……。」信仰の未熟さゆえに、私は後悔と自責の念で、御礼の機会を逸した。古い先短い私に心残りのない様にとの神のご配慮か。この機会に当時の神学生諸兄にお詫びとお礼を申し上げたい。経緯は不明のまま、経済的困難の中にある母教会のご支援を賜り、戸惑いながらも感謝し受けるに至った。

同窓生の近況 44期生 シオン石岡教会 ● 穂谷弘二



諸先生方のお祈りとご配慮を心から感謝申し上げます。小生、石岡に単身赴任して、まる3年間に経ちました。当初、石岡市剣道連盟に新しい教会名刺を持って挨拶に行く。「穂谷さんは自衛官ですか？」と尋ねられ、苦笑しながら、「いいえ、キリスト教の牧師をしています」と返答したことがあります。……？何だか訝しく思われたのではないかと感じていました。

石岡教会はご高齢の方が多くですが、皆様とても元気で礼拝に集ってくださっています。礼拝出席は平均して15〜20名です。

この4月より娘・琴美が新潟にある敬和学園高校（ミッション系）に入り寮生活をしています。妻は横浜、私は茨城、娘は新潟と家族3人、別々の場所で生活しています。また昨年の12月より当教会員の方が経営している（株）ベテルの生産製造部という所で週1〜2回仕事をさせて頂いております。

人間関係を大切にすること、他者に真実を尽くすことがやがて伝道につながっていくのかなと思わせて頂いている今日この頃です。

神学院スタッフ…恵みの想起

寮生活と初代院長から 学んだこと ②

図書館司書 三森春生

自信などとは言えませんが、多少のことが分かっているつもりという状態が、新しい知識や技術を修得するのに妨げになると言われます。初代院長から見ると私はまさにそんな状態だったのでしよう。まして学生生活だけで社会を知らなかった青年ですから、何かと注意の対象となったに違いありません。その点は薫田院長も同様で、日本橋での開戦、開拓伝道当時の回顧談で語られることがよくありました。教団創設者、教団総理、丸ノ内教会主任牧師といったそれぞれの立場や、また超教派諸活動のリーダーとして、国内だけでなく国際的なかわりでの対応について、学ばされることが多くありました。それは一口に言ってリーダーシップの問題でした。

学苑だより

● 創立70周年記念式典のお招き日時 5月21日（火）午前9時〜11時（同窓会にあわせて）会場 聖宣神学院チャペル式辞「あなたがたもまた、互いに」今までの恵みに感謝し、これからの神学院を展望するメッセージが語られます。メッセージの後は分かち合いのときがあります。一般公開です。信徒の方、後援会の方、同窓会ホーム・カミングにご出席にれない先生方、ごなごも歓迎です。ウィークデーで恐縮ですが、ぜひ感謝の記念塚にお立ち会いください。ごいっしょにできれば幸いです。

● 後援会から 創立70周年記念感謝献金は4月末で1300万円余が献げられました。5月末日までです。引き続き恵みへの感謝をもってお加わりください。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。3月の会計報告をさせていただきます。

3月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による「神学院サポート献金」
¥967,675
教会団体による「神学院献金」
¥472,545
合計 ¥1,440,220
その他の献金（一時・特別）
¥287,500

・振替：00230-0-10138



公報

本部通達

「こうして、教会はユダヤ、ガリラヤ、サマリアの全地にわたり築き上げられて平安を得た。主を恐れ、聖霊に励まされて前進し続け、信者の数が増えていった。」

(使徒の働き九・31)

新年度を迎えて一か月が経過しました。新しい任命のもと、主の導きとみ守りのうちに教会の新年の歩み出しもなされたこと存じます。特に新しい牧師を迎えた教会、新しい環境や状況に移られた先生方をお祈りに覚えましょう。長い連休を越えて、多くの教会で特別な集いが企画され、行われることでしょうか。一つひとつの営みに聖霊の豊かなご干渉があり、良き福音の種まきがなされるように、互いの祝福を祈り求めましょう。

■本部

(会議)

7日(火) 女性牧師ホーム委員会

27日(月) 人権委員会

28日(火) 年会検討委員会

■総務局

教職按手礼試験の希望者は、6月末までに総務局へ申請書の提出をお願いします。ご相談は各地域担当ブロック・アドバイザーまで。

■国内教会局

(会議)

13日(月) 国内教会局運営委員会

〈教区会〉

7日(火) ～8日(水) 北海道地区

〈JEA関係〉

JEA 女性委員会主催

「心のオアシスリゾート」

日程 6月24日(月) ～26日(水)

会場 しまわせの村(神戸市)

講師 菅家容子師

(元OMF宣教師)

テーマ「宣教の使命を担って」置かれたところで生き生きと」

申込み方法等、詳しくは案内・参加申込書もしくは <https://jeanet.org/> をご覧ください。教職、信徒問わず参加可能です。

■世界宣教局

台湾の台中教会(平瀬義樹、光世宣教師)では、現在の教会から比較的近い場所に、集会場が見つかりました。また新しい牧師住居も決まりました。

■教会住所

40360 台中市西區

台湾大道2段545號 企業天

廈8F・3 / 電話及びFAXは

変更なし 04-2320-2931/2320-

6418 連絡メールは左記の通り

igntaiwan234@gmail.com

▽葛田緑乃宣教師が協力しておられる、カンボジアKCC(カンボジア・クリスチャン・コミュニティ)では、予定通り、4月11日に本部、宣教師館の献堂式を行いました。局長は9日から訪問し、KCC代表や牧師たちと幸いな交わりと話し合いの時を持ちました。また献堂式での式辞の責任を果たし13日に帰国しました。

▽2019年、宣教師の帰国報告

予定

根廻恵子宣教師(ザンビア)の帰国は10月初めで、巡回報告は2019年11月からとなります。

▽2019年8月27日～9月5日のザンビア宣教訪問団の参加者募集は締め切られました。参加者と受け入れの準備のために祈りましょう。

〈IWF関係〉

(会議)

28日(火) IWF理事会

▽梅田昇師夫妻は5月11日～16日まで、バルバドスで持たれるウェスレアン教会世界協議会に出席します。

▽5月28日にIWF理事会を開きます。教会でIWF基金からの宣教師を招くための支援金、また、教会堂の増築、改築などの融資を希望する場合は、理事会開催までに、申請書を委員の梅田登志枝師までご提出ください。

▽ロビン・ホワイト宣教師は6月にカナダでの報告のためにしばらくの間、帰国されます。奉仕は5月まで可能です。

■教育局

(会議)

7日(火) 教育局運営委員会

9日(木) 生涯学習課会議

21日(火) 教会学校部部会

《青年課》

《スタッフ・トレーニング・キャンプ》

5日(月) ～6日(火)

於・聖宣神学院

14日(火) 全国壮年部運営委員会

発行人 内山 勝 編集者 寺村秀嗣

発行所 東京都千代田区神田駿河台一

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇

〇〇〇ビル イムマヌエル綜合伝道団本部

新生宣教団 定価 一部〇〇円(税込)

郵便振替 001107133609

〈JHA関係〉

▽第12回北海道聖化大会

日時:5月21日(火)～22日(水)

▽第76回ジョン・ウェスレーに学ぶ会(大阪)

日時:5月21日(火)

▽第23回栃木聖化大会

日時:5月26日(日)

▽第12回四国聖化大会

日時:5月26日(日)

▽第15回関東JHA青年大会

日時:5月26日(日)

■聖宣神学院

▽創立70周年記念式典のご案内

5月21日(火) 午前9時～11時、聖宣神学院チャペル。一般公開です。信徒の方も歓迎。ぜひお立ち会いください(学苑だよりの欄を参照)。

▽前期の教会実習 受け入れ教会に感謝致します。

峯尾仰生兄 インマヌエル大宮教会

石川順兄 東京フリー・メソジスト桜ヶ丘教会

田中利道兄 インマヌエル中目黒教会

藤井佳代子姉 インマヌエル聖宣神学院教会

▽創立記念日 17日は70回目の聖宣神学院創立記念日です。12日、19日、26日に創立記念日特別教会実習を実施します。

▽創立記念日感謝献金 ご協力をお願い致します。

▽21日(火) 春の教師会(同窓会)のあと、聖宣神学院)

▽後援会たより第5号が発行され

ました。礼拝出席の皆さまにお送りしました。

▽聖宣神学院創立70周年記念感謝献金

4月末までに1300万円余が献げられました。今月末が締切です。感謝をもってお加わりください。

▽神学院祈り会 5月7日(火)午後6時、本部会議室。

■出版事業部

31日(金) 出版事業部常勤部会

(春は常勤者のみの部会です。)

▽第6回力ナ・フェロシツプ開催

日時 6月15日(土) 午前11時～午後1時

水谷潔先生セミナー(参加自由)、イム、参加費3千円(要申込)

*水谷潔先生のeラーニング受講者は参加費無料です。

会場 中目黒教会

申込締切 5月19日(日) (フェロシツプタイム参加者のみ)

*詳細は教会牧師にお尋ねくださるか、教団HPカナ・フェロシツプコーナーをご覧ください。

消息報告



▽平位忠子師、葛田直子師のお母様、長谷川睦子姉(神学院教会員)は去る2月19日(火)、百五年の地上生涯を全うして天の召しにあずかられました。ご遺族に主の慰めをお祈りいたします。

教報PDFパスワード 9861